

001

町内会自主防災隊を主体とした
平時からのコミュニティ形成と
災害時の迅速な対応

取組主体

秋田県秋田市横森五丁目町内会 自主防災隊

世帯数

約 250 世帯

想定災害

水害

実施地域

秋田県秋田市
横森五丁目

平時から町内会役員をメンバーとする自主防災隊を設立し、大雨災害時に水害対策本部を設置。迅速な住民の救援活動を実施するとともに、行政・関係機関との連携により包括的な支援を実施している。

1 取組の概要

- ・秋田県秋田市横森五丁目町内会は「行政に頼るだけではなく、まず自分たちでやらなければ」という思いから、2012年に町内会役員をメンバーとする自主防災隊を設立した。その自主防災隊が、「自分たちでできることは、自分たちでやろう」をスローガンに掲げ、秋田市の消防署と連携した防災訓練を毎年実施している。また、2023年7月中旬に秋田市を襲った記録的な大雨災害時の教訓から、住民の備えをより強化する一助とするために「水害について語り合う会」も開催している。

平時のコミュニティ形成や防災訓練が、大雨災害時に効果を発揮

- ・2023年に発生した大雨災害時には、平時から防災訓練に取り組んでいた自主防災隊が、水害対策本部を町内会役員宅に設置することを速やかに決定・実行し、住民の救援活動を実施することができた。また、発災翌日、自主防災隊は10人の隊員を2人1組の5班に編成し、全251世帯の戸別訪問を実施した。各世帯の安否確認と被害状況の調査を行い、その結果を町内案内図にまとめて記録した上で、市役所への状況報告と対応要請を行うとともに、保健所や社会福祉協議会にも支援を要請した。日頃からの活発な町内会活動により住民同士が顔見知りであったことも、迅速な支援活動の実現につながった。
- ・並行して、被災世帯への包括的な支援活動を実施した。まず、全世帯を再度訪問し、水害処理の対応手引を配布するとともに、各世帯の状況確認を詳細に行った。また、ボランティア団体と連携し、衣料品や食料品、飲料水等の生活用品だけではなく、土のう袋、軍手等の支援物資も各世帯に配布した。
- ・復旧期の被災者への生活支援面では、行政書士会会員の協力を得て罹災証明書の申請手続きを代行したほか、町内には一人暮らしの高齢者が多いという背景を踏まえて、高齢者世帯への定期的な見回りや健康状態の確認も実施した。また、ボランティア団体と協力して炊き出しを行い、必要な世帯にはその配達も行った。さらに、水害処理の専門家を招いて家屋などの適切な原状回復のための対処方法を指導する会を開催したり、災害ごみの効率的な処理を目的に、ごみの収集場所を一箇所に集約し、役員による常時管理を行ったりした。



水害処理の専門家によるレクチャー



炊き出しの様子



大雨災害時の様子

2 取組のきっかけと想い

- ・町内会役員の親戚が宮城県気仙沼市南郷地区に住んでいた縁から、東日本大震災で被災した気仙沼市の町内会との間で支援物資の提供などの交流があった。2012年に、気仙沼市の住民らと交流するために現地を初めて訪問した際、想像を超えた津波の被害を目の当たりにして、大きな衝撃を受けた。その際に、被災規模が大きくなる水害では、救助がすぐに来ることも期待できず、命を守るためには自分たちで助け合うしかないと思い、自主防災隊の設立に至った。

3 取組の特徴（差別化した点、地域特性などで工夫した点等）

自主防災隊が中心となった平時のコミュニティ形成

- ・横森五丁目町内では、近年頻発する自然災害への備えを地域住民と一緒にを行うために、自主防災隊が中心となり、地域の祭りや防災セミナーなどを積極的に企画したり、秋田市の消防署と連携した防災訓練を行ったりするなどして、平時から顔の見える関係をつくり、住民の共助の輪を広げている。

被害の教訓から今後の対応策を考える場を企画

- ・同町内会では、水害発生翌年に当たる 2024 年に、太平洋氾濫による浸水被害の教訓から、改めて災害に備えることを地域住民で議論し考える場として「水害について語り合う会」を発足。約 30 人の住民が参加し、避難時の具体的な課題（「水害時に、内陸の公園や体育館までたどり着けるのか」、「建物のない避難所の場合、どのように水害に対応すべきか」）を共有し、議論した。その結果、各家庭の安否確認先と避難先を明確化し、自主防災隊と共有することを決定した。

4 取組の効果

住民の安心感の向上

- ・自主防災隊は、本取組の効果として「住民の安心感の向上」が得られたと考えている。具体的には、水害対策本部に役員が常駐して住民からの相談や要望に迅速に対応したことで、被災者に寄り添った支援を実現できた。全世帯の 7 割以上が見舞われたという甚大な住宅浸水被害においても、被害状況を速やかに把握し、それに基づく適切な支援を展開できたことで、住民の安心感の向上に大きく寄与した。

関係機関との連携による包括的支援の実施

- ・発災後、行政・関係機関との連携体制を早期に確立できたことで、災害ごみの迅速な収集、消毒液の提供、ボランティアの効率的な配置等、具体的かつ実効性の高い支援を実現できた。これら一連の支援活動は、平時からの防災訓練や地域コミュニティづくりといった取組が基盤となっている。

周囲の声

- ・「水浸しになった畳などの家財の運搬や清掃において支援していただいて非常に助かった」（地域住民）
- ・「私は高齢で家からの移動が難しく炊き出し会場に行くことが難しかった。自主防災隊の方々が家まで炊き出しで提供された料理を運んでくれたので、本当にありがたかった」（地域住民）

担当者の声

- ・活動前は災害が起ころうと、行政による対応を待ち、町民として主体的に対応を行うことは少なかったのですが、行政のリソースを効率的に発揮してもらうためにも、自分たちでできることについて日頃から考え、備えておくことが大事だという想いから本取組を進めるに至りました。
- ・また、災害が発生したときには、お互いが助け合える関係があることが重要です。日頃のつながりがあるからこそ、いざというときにも力が発揮されと考えます。そのために、これからも私たちの町内会では、老若男女問わずお互いの顔が見える関係づくりを進めていきます。

問合せ先

動画

サイト URL

秋田県秋田市横森五丁目町内会 自主防災隊
電話番号：018-834-9710 FAX：018-834-9710

—

—